

第4期（平成27年度～平成29年度）
中央ブロックまちづくり計画

中央ブロックまちづくり委員会

平成27年3月

目 次

(頁)

第1章. はじめに	…	1
第2章. 中央ブロックの現状		
1. 中央ブロックの概要		
(1) 位置・地勢	…	2
(2) 自然	…	2
(3) 沿革	…	3
2. 人口・世帯		
(1) 人口・世帯	…	3
(2) コミュニティ (地域のつながり)	…	5
3. 地域資源		
(1) 産業	…	6
(2) 都市計画・道路整備	…	7
(3) 医療・福祉等	…	7
(4) 教育	…	8
(5) 歴史・文化	…	10
第3章. 地域での取り組みと地域課題		
1. 地域での取り組み	…	12
2. 地域課題	…	13
第4章. まちづくりの基本方針と事業展開		
1. まちづくりの基本方針	…	14
2. まちづくりに向けた事業展開	…	15
第5章. まちづくりの事業内容	…	16

第1章. はじめに

《計画策定の趣旨》

本計画は、大田町・川合町・久利町・大屋町からなる中央ブロックにおける今後のまちづくりについて、地域の代表者を含むまちづくり委員会において検討し、方向性を示したものです。

本計画を実行することにより、ここに住む全ての人が自分の個性や特技を活かし、生きがいを感じてイキイキと暮らすことのできるまちをつくり、次世代に引き継ぐことを目指します。

本計画の実行にあたっては地域住民、各種団体、行政等の関係機関と連携を図り協働によるまちづくりを進めます。

《計画の構成》

本計画は、『第1章. はじめに』から始まり、『第2章. 中央ブロックの現状』『第3章. 地域での取り組みと地域課題』を踏まえ、第4章以降に今後のまちづくりの方向性と第4期に取り組む事業を示した『第4章. まちづくりの基本方針と事業展開』『第5章. まちづくりの事業内容』から構成しました。

特に『第5章. まちづくりの事業内容』では、第4期で集中的に取り組む事業を掲載しています。

《計画の期間》

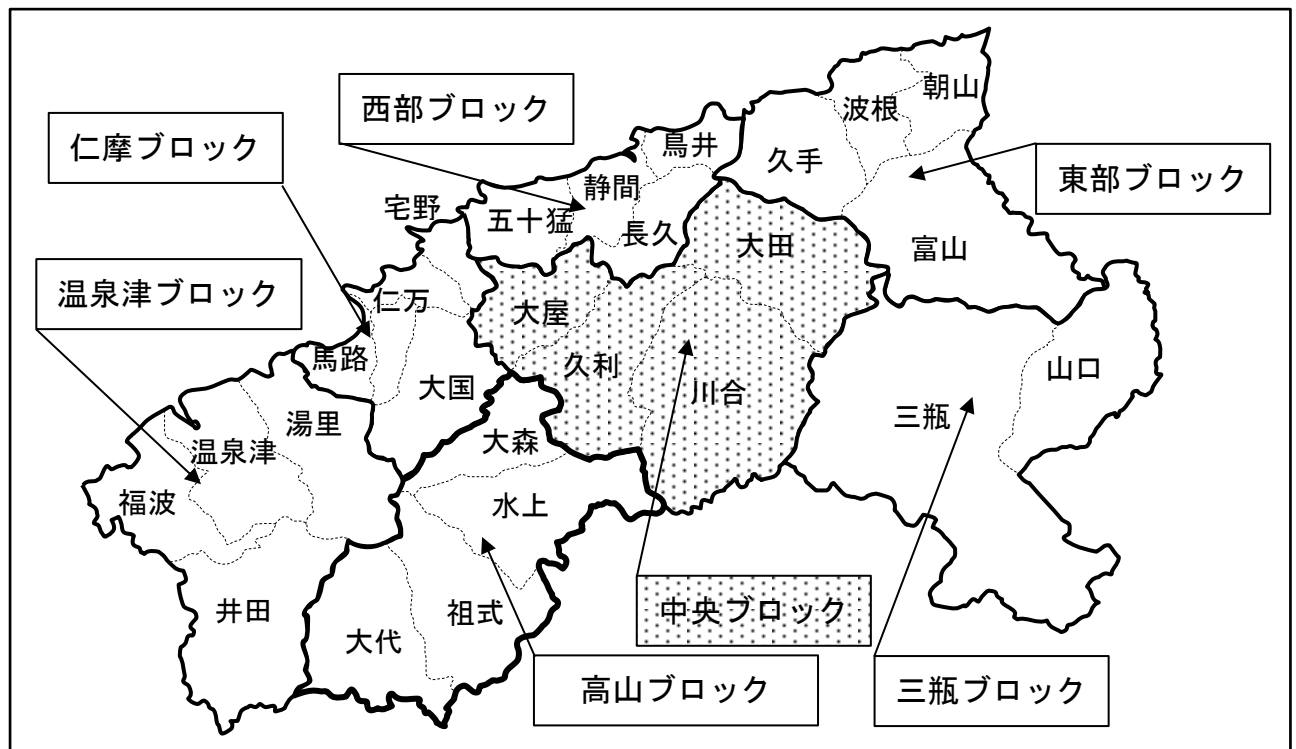
平成27年度から平成29年度（第4期）の3年間とします。

《計画のチェック・見直し》

毎年度末にまちづくり委員会において計画と事業の見直しを行い、必要があれば修正します。

第2章. 中央ブロックの現状

<ブロック位置図>



1. 中央ブロックの概要

(1) 位置・地勢

中央ブロックは、大田市のほぼ中央に位置しており、大きく分けて、大田町を中心とした商業地域と、いわゆる中山間地域に属する川合町、大屋町、久利町の農業地域に分類することができます。

中央ブロックは、静間川・三瓶川およびその支流周辺に平野部を有するものの、その大部分は中山間地です。この2つの主要河川は上水・用水の水源であると同時に、三瓶川は旧大田市を貫流しているため都市公園的景観を、静間川は田園景観を構成する一要素の側面も併せ持っています。また、逢浜川（大屋～五十猛）を除いて4町の河川は、すべて静間川の支流であり、下流域の田代（でんだい）を潤し、日本海に注いでいます。

また、市街地には JR 大田市駅、大田市役所、大田市立病院等、市の中心機能が集積しており、生活に欠くことのできない施設があり、中央ブロックは市街地や農村地域を併せ持つ、個性溢れる町の集合体であると言えます。

(2) 自然

ブロック内には多くの自然が残っていますが、農林業従事者の高齢化や担い手の減少によって、荒れ放題の土地や休耕田が年々増えています。地域の資源である豊かな自然環境を保全していくためには土地所有者だけではもはや限界であり、地域住民が協力し合い、

荒廃した土地の管理をしていくことが必要です。

また、地域の資源でもある山や川などの豊かな自然もごみの投棄などにより景観が損なわれています。癒しとなる自然環境を保全していくためにも、私たち自らが手入れしていかなければなりません。

さらに、防災の観点からも荒れている田畑、山を計画的に保全していく必要があります。

加えて、花いっぱい運動やゴミ拾いなどの景観美化活動が行われているものの、十分とは言えない状況です。

(3) 沿革

昭和の大合併により誕生した大田市における中央ブロックの沿革は、安濃郡大田町と川合村、邇摩郡久利村が昭和29年1月に第1次合併し、邇摩郡大屋村が昭和31年9月に第3次合併し、現在に至っています。

2. 人口・世帯

(1) 人口・世帯

中央ブロックの人口は、平成22年の国勢調査によると、12,604人で、平成17年に行われた前回調査と比べると、620人(4.7%)減少しています。ブロック全体の人口、世帯数の推移は大田市全体と比べると、減少傾向は緩やかです。

ただし、久利町では僅かながら人口、世帯数ともに増加しています。

また、7つのブロックの中で最も人口が多く、大田市全体の33%を占めています。

<地区別人口・世帯数>

地区別	平成17年				平成22年				増減 H22/H17	
	人口			世帯数 x	人口			世帯数 y	人口 b/a	世帯数 y/x
	総数 a	男	女		総数 b	男	女			
大田町	9,303	4,351	4,952	3,522	8,853	4,156	4,697	3,475	95.2%	98.7%
川合町	2,075	976	1,099	689	1,918	907	1,011	651	92.4%	94.5%
大屋町	446	196	250	165	386	183	203	151	86.5%	91.5%
久利町	1,400	691	709	466	1,447	698	749	491	103.4%	105.4%
中央ブロック	13,224	6,214	7,010	4,842	12,604	5,944	6,660	4,768	95.3%	98.5%
大田市	40,703	18,897	21,806	14,804	37,996	17,761	20,235	14,312	93.3%	96.7%

出典：国勢調査（各年10月1日時点）

平成22年の国勢調査における年代別人口構成比を大田市全体と比較すると、中央ブロックは【年少人口】及び【生産年齢人口】の割合がやや多く、【老年人口】の割合がやや少なくなっています。

特に大屋町では【従属人口指数】が98%となっており、一人の働き手で一人の非働き手（年少者と高齢者）を支える構図になっています。また、少子高齢化が極端に進んでおり、【老年化指数】が極めて高くなっています。

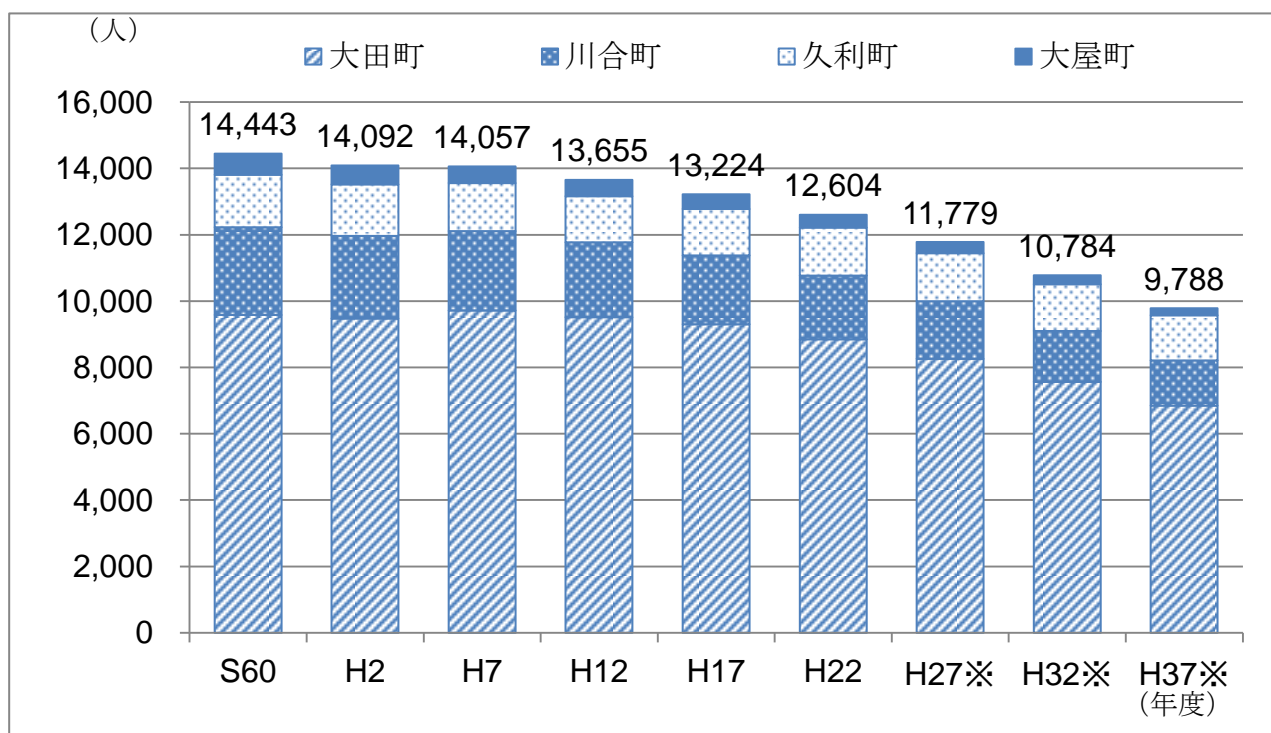
国勢調査を基に算出した将来推計人口によると、中央ブロックの人口は平成37年度には9,800人を切り、平成22年度の国勢調査の12,604人から2,816人(22.3%)減少するものと予測されています。

<年齢3区分別人口・割合>

	年齢3区分別人口			年齢3区分別割合			年少人口指数 a/b	老年人口指数 c/b	従属人口指数 (a+c)/b	老年化指数 c/a
	年少人口 0歳～14歳 a	生産年齢人口 15歳～64歳 b	老年人口 65歳以上 c	年少人口 0歳～14歳	生産年齢人口 15歳～64歳	老年人口 65歳以上				
大田町	1,205	5,093	2,554	13.6%	57.5%	28.9%	23.7%	50.1%	73.8%	212.0%
川合町	214	1,004	699	11.2%	52.4%	36.5%	21.3%	69.6%	90.9%	326.6%
大屋町	20	195	171	5.2%	50.5%	44.3%	10.3%	87.7%	97.9%	855.0%
久利町	204	779	464	14.1%	53.8%	32.1%	26.2%	59.6%	85.8%	227.5%
中央ブロック	1,643	7,071	3,888	13.0%	56.1%	30.9%	23.2%	55.0%	78.2%	236.6%
大田市	4,372	20,456	13,162	11.5%	53.8%	34.6%	21.4%	64.3%	85.7%	301.1%

出典：国勢調査（平成22年度）

<中央ブロックの推計人口>



※ 推計値

出典：国勢調査

(2) コミュニティ（地域のつながり）

《自治会》

農村地域では、高齢化率（老年人口割合）が40%を超える地区もあり、これまで自治会単位で行っていた伝統行事や葬儀などを行うことが難しくなっています。

また、市街地では核家族化が進み、賃貸アパートが増え、自治会に未加入の世帯が増加しています。これらが一因となって、隣近所の助け合い意識が希薄になっており、自主防災組織などの地域組織の構築も難しく、災害時に高齢独居世帯の安否確認ができないといった問題に直面しています。

一方では、高齢者のための介護予防教室、高齢者と子どもがともに楽しめる各種のイベントが各地域で開催されており、今後もこのような世代を超えた交流ができる場が求められています。

特に農村地域では自治会活動の継続が困難であると感じている人も多く、【まちづくりアンケート】（平成24年度実施）では「自治会や班の組織の再編の必要性を感じていますか？」との問いに、久利町と大屋町では「感じている」と回答した人の割合が高くなっています。

《町》

農村地域では人口減少や若者の町外流出によるマンパワーの減少により町単位での地域活動も衰退の一途を辿っています。また、若者の地域の伝統行事への参加が減り、年齢を超えた“縦の関係”が希薄になりつつあります。

ただし、市街地では地縁型のつながりが希薄になる反面、サークルやPTAなどの共通の目的等を中心として人の輪が形成されています。今後は町単位での地域活動に併せ、隣接する町同士やブロック単位での活動も求められます。

このほか、少子化が進むなか、塾通いや部活などで多忙な子どもたちが多くなっており、自然に触れ合う機会も少ないため、自然の中での遊び方を知らない子どもたちが多いことは憂慮すべきことです。

3. 地域資源

(1) 産業

中央ブロックは大きく分けて、大田町を中心とした商業地域とそれ以外の農村地域に分類することができます。

<産業(3部門)別就業者・割合、従業上の地位(2区分)別割合>

地 域	産業3部門別 就業者			産業3部門別 割合			従業上の地位別割合	
	第1次	第2次	第3次	第1次	第2次	第3次	雇用者	自営業主・ 家族従業者
大田町	133	947	3,202	3.1%	22.1%	74.8%	85.1%	14.9%
川合町	113	217	517	13.3%	25.6%	61.0%	76.6%	23.4%
大屋町	52	45	102	26.1%	22.6%	51.3%	70.5%	29.5%
久利町	82	171	430	12.0%	25.0%	63.0%	79.3%	20.7%
中央ブロック	380	1,380	4,251	6.3%	23.0%	70.7%	-	-
大田市	1,985	4,765	11,130	11.1%	26.6%	62.2%	80.4%	19.6%

出典：国勢調査(平成22年度)

<<商 業>>

JR 大田市駅から伸びる通り周辺には飲食店や商店があり、商店街を形成していますが、近年は人口減少に加え、郊外型の大型店舗や食品・日用品を扱うドラッグストア、コンビニエンスストアに買い物客が流れる傾向にあり、既存の商店街では空き店舗が増えています。

また、大田町橋南地域においては、それまで地域の買い物の中心的存在であったショッピングセンターが平成23年に閉店し、周辺の活力が減退しています。

一方では商店街が企画した小規模な市(いち)が開かれたり、飲食店(料飲組合)で集客のためのスタンプラリーを実施したりするなど、活性化に向けた動きが少しずつ出始めています。

<<農 業>>

農家のうち約7割が兼業農家で、そのうち約9割が農業を主業としていない第二種兼業農家です。さらに、農家の約8割が耕地面積1ヘクタール以下の小規模な農家です。

また、農業従事者の急速な高齢化の進行により担い手が大幅に減少しています。耕作放棄地の増加や鳥獣被害による耕作意欲の喪失が大きな問題となっています。

<地域別農業統計資料>

	農家数 (戸)				農家人口 (人)		
	総数	専業	兼業		総数	男	女
			第一種	第二種			
大田	50	16	1	33	166	81	85
川合	109	36	5	68	401	199	202
大屋	42	14	6	22	153	74	79
久利	76	22	2	52	260	147	113
中央 ブロック	277	88	14	175	980	501	479
大田市	1,436	428	110	898	5,094	2,567	2,527

	経営耕地面積 (a)				経営耕地面積規模別農家数 (戸)		
	総数	田	畑	樹園地	1.0ha 未満	1.0ha 以上 5.0ha 未満	5.0ha 以上
大田	3,422	3,009	262	151	44	6	0
川合	10,460	8,507	1,640	313	94	9	6
大屋	2,832	2,316	362	154	33	9	0
久利	5,841	4,869	441	531	57	19	0
中央 ブロック	22,555	18,701	2,705	1,149	228	43	6
大田市	140,285	113,379	21,594	5,312	1,092	311	33

注：経営耕地面積が 30 アール以上又は、農産物販売金額が 50 万円以上の農家を対象とした調査

出典：農林業センサス（平成 22 年度）

（２）都市計画・道路整備

ブロック内には国道 9 号線に接続する国道 375 号線が南北に走り、県道大田桜江線は栄町交差点を基点に世界遺産石見銀山遺跡へと延びています。また、県道三瓶山公園線は国道 9 号に接続して国立公園三瓶山への観光ルートとして利用されています。

幹線道路から延びる市道・農道は、大田町を中心とした市街地と周辺の農村地域を結ぶ、中央ブロックの生活路線としての重要な役割を果たしています。

また、集落が点在する農村地域では、高齢者をはじめとする交通弱者にとって交通手段の確保が求められているとともに、バス利用の促進など路線を維持する取り組みも求められます。

（３）医療・福祉等

中央ブロックには病院・診療所、及び歯科、眼科など、大田市内の医療機関が集中して

います。ただし、ほとんどが大田町にあり、川合町・久利町には診療所が1箇所ずつ、大屋町には医療施設がない状況です。高齢化が進む中、頻繁に医療機関を利用する高齢者も多く、交通手段の確保が求められます。

また、ブロック内には養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人福祉センターが各1箇所ずつあり、そのほか、グループホームやデイサービスといった介護サービスを提供する施設が複数あります。これらの施設と地域で防災訓練を一緒に行ったり、地域行事に施設から参加されたりするなどして、交流を図っています。

<福祉関係の統計数値>

区 分		大田	川合	久利	大屋	中央 ブロック	大田市
世帯数	a	3,727	934	544	176	5,381	16,096
人口	b	8,588	1,991	1,384	375	12,338	37,568
65歳以上人口	c	2,452	812	449	183	3,896	13,449
高齢化比率	d=c/b	28.6%	40.8%	32.4%	48.8%	31.6%	35.8%
独居老人数(≒世帯数)	e	614	146	97	43	900	3,166
独居老人比率□(対世帯数)	f=e/a	16.5%	15.6%	17.8%	24.4%	16.73%	19.7%
独居老人比率□(対人口)	g=e/b	7.1%	7.3%	7.0%	11.5%	7.29%	8.4%
独居老人比率□(対65歳)	h=e/c	25.0%	18.0%	21.6%	23.5%	23.10%	23.5%
6歳未満人口	j	444	77	51	5	577	1,573
幼年者比率	k=j/b	5.2%	3.9%	3.7%	1.3%	4.7%	4.2%

出典:大田市民課／社会福祉課(平成26年4月1日現在)

(4) 教育

中央ブロックには、9つの保育園(私立、認可外保育施設、家庭的保育事業施設を含む)、1つの幼稚園、3つの小学校と1つの中学校があります。

平成31年度における中央ブロックの児童・生徒数見込みは、児童数で1割減、生徒数で微減となっています。また、久屋小学校においてはこの5年間で25人減り、平成26年度の児童数から半減する見込みとなっています。

一方で、地域と密接な繋がりがある山間部の子どもたちは、地域行事において、欠かせない要素であり、一層の少子化対策・定住促進が求められます。

このほか、ブロック内にある大田高等学校、第一中学校の有志からなる地域活動団体『おおだJ Oいんつ♪』が平成25年度に設立され、地域のイベントに出店、或いは一部企画運営を行うなど、地域に入り込んだ活動を行っています。

<保育所等園児数>

	施設名	区分	定数	在園児数
大田町	大田保育園	認可保育所（市立）	90	76
	あゆみ保育園	認可保育所（私立）	130	148
	相愛保育園	認可保育所（私立）※	120	129
	たんぼぼ保育所	認可外保育所	35	22
	わんぱ〜く保育園	認可外保育所	17	7
	小田ママ	家庭的保育事業施設	5	4
	石賀ママ	家庭的保育事業施設	5	5
	大田幼稚園	市立幼稚園	105	56
川合町	川合保育園	認可保育所（市立）	60	32
久利町	久利保育園	認可保育所（私立）※	50	43

※ 平成 24 年 4 月 1 日、民営化

出典：大田市子育て支援課（平成 26 年 4 月 1 日現在）
／教育委員会（平成 26 年 5 月 1 日現在）

<小学校・中学校の状況>

区 分	昭和 61 年度		平成 18 年度		平成 26 年度		平成 31 年度 (見込)		
	生 児 徒 童 数	学 級 数	生 児 徒 童 数	学 級 数	生 児 徒 童 数 a	学 級 数	生 児 徒 童 数 b	学 級 数	増 減 率 b/a
大田小学校	956	26	555	20	524	19	476	18	90.8%
(野城分校)	5	1	2	1	-	-	-	-	-
川合小学校	219	7	94	6	74	6	75	6	101.4%
久屋小（久利小）	121	6	61	7	65	6	36	4	55.4%
久屋小（大屋小）	42	4							
中央ブロック内 小学校計	1,343	50	712	34	663	31	587	28	88.5%
大田第一中学校	801	20	438	12	439	14	423	14	96.4%

出典：大田市教育委員（平成 26 年 5 月 1 日現在）

《まちづくりセンターと公民館》

中央ブロック内には、大田まちづくりセンター、川合まちづくりセンター、久利まちづ

くりセンター、大屋まちづくりセンターの4つのまちづくりセンターと中央公民館があります。

各まちづくりセンターにおいてもそれぞれの特色を生かし、農業体験や自然学習活動、環境美化活動など多岐にわたってまちづくり活動を行っています。

また、中央公民館の取り組みとして、次世代を担う地域リーダーの養成に注力しており、研修会や体験学習を通して、地域と積極的なのかかわりを持った取り組みを行っています。

さらに、中央ブロックの4町と公民館が一体となったイベントを実施し、ブロック内の各町の連携を深めています。

<まちづくりセンターと公民館の状況>

区 分	建設年月日 面積 (㎡) 構造	職員配置	備考
中央公民館	S59年12月 473.98㎡ 鉄筋コンクリート	館長1(非常勤) 主事1	
大田まちづくりセンター		センター長1(非常勤) 一日職員2 半日職員1	
川合まちづくりセンター	S59年12月 353.52㎡ 鉄骨平屋	センター長1(非常勤) 一日職員1 半日職員1	多目的集会所
大屋まちづくりセンター	H7年3月 1,122.70㎡ 鉄筋平屋	センター長1(非常勤) 一日職員1 半日職員1	面積のうち交流ホール 495㎡
久利まちづくりセンター	S28年10月 601.70㎡ 木造2階	センター長1(非常勤) 一日職員1 半日職員1	H2.3月一部改修

(5) 歴史・文化

神話によると、素戔嗚尊(すさのおのみこと)の子である五十猛神(いそたけるのかみ)が大陸から一緒に上陸した姉の大屋津姫命(おおやつひめのみこと)が、種を蒔いて生まれたひとつ(樹木)が「大屋郷」であったとされています。

このようにブロック内には神話(伝説)として語り継がれているものから、史実に基づくものまで、ゆかりの名勝・旧跡が点在します。

《名 勝》

・鶴府山(川合)

物部神社の御祭神「宇摩志摩遲命(うましまじのみこと)」がこの石東の地を平和で豊かな地域とするため、鶴に乗って降臨されと言われており、その山を鶴降山(現在の鶴府山)といいます。山頂には今も国見をされた場所と伝えられている遺跡があります。

・鬼岩(大屋・県指定文化財)

鬼が郷を造り（鬼村）、露頭岩盤はその爪跡と言い伝えられ、角折（つのおれ）と呼ぶ地名も隣接します。松くい虫により、往時の松林に囲まれた風情はなくなっていますが、平成19年に「鬼村の鬼岩」として島根県指定文化財（天然記念物）の指定を受け、地元自治会で小公園を設けるなど保存整備を行っています。

《旧跡》

- ・鶴ヶ城跡（川合）

旧川合中学校付近。江戸期、吉永藩の藩主として会津若松から着任した加藤氏は、藩政改革の中で産業振興に努め、三瓶牛の放牧など、現在の本市の産業基盤を築きました。

- ・久利城跡（久利）

久利氏が、石見国司から郷氏職を任じられ、10世紀には土着し、戦国時代まで司っていました。

- ・大田町旧道沿いの門前町

旧山陰道沿いに古刹（こさつ）が建立され、特に江戸期は出雲国と石見銀山を結ぶ交通の要衝としての役割を果たし、商家・民家が集積していた名残があります。

《民俗行事》

- ・仮屋行事（大田）

正月に歳徳神（とんどさん）を迎える行事で1月5日頃に自治会毎で行われます。一年間の無病息災・厄除け・子供の成長を祈ります。

- ・物部神社（川合・本殿県指定文化財）

社伝によると、物部氏が大和より石見に入国し都留夫（鶴府）の山に登って国見をされたと記されています。本殿は16世紀末に再建されていますが、古来より伝わる奉射祭（正月）・夏祭り・例大祭（秋）などの神事が、現在も受け継がれています。

- ・彼岸市（大田）

季節の変わり目の彼岸にお寺の縁日に境内で物々交換をしたのが「市」の始まりで、四百年以上の歴史を持つ大田市の伝統行事です。当時は、春の彼岸に「市」を開いていたようですが、現在では秋にも開かれ、多くの人出で賑わっています。

- ・負幟（おいのぼり）と高野聖（こうやひじり）（大田・市指定文化財）

大田町を二分する両八幡宮例祭の御神幸（ごしんこう）に繰り出します。

- ・忍原神楽（川合）・大屋神楽（大屋）

明治初期に保存会が結成され、現在もその活動が続けられています。石見と出雲の両系統の調子を合わせもつところに特徴があります。

第3章 地域での取り組みと地域課題

1. 地域での取り組み

これまで地域課題の解決に向けて、以下のような取り組みを行いました。

他ブロック同様、中央ブロックにおいても少子高齢化が進み、高齢者の夫婦二人世帯や独居世帯も多いことから、高齢者にとっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、緊急医療情報キットの配布を行いました。

また、景観美化活動として、主要道沿線の植栽やまちづくりセンターで実施している三瓶川の清掃活動との相乗効果を狙い、美化意識の醸成を図る目的で三瓶川沿線のウォーキングマップの作成を行いました。

ブロック内には、かつては住民の憩いの場となっていた名所が点在しており、地域の遺産として後世に残すため保全整備を行いました。以前に比べ、訪れる人も増えてきつつあります。

また、ブロック内の農業地域では美しい田園風景が残ってはいるものの、年々休耕田が増えている状況から農地を管理する上で、負担の大きい草刈作業の軽減を図る目的で自走式草刈り機を購入し、地域で活用しています。

そのほか、豊かな自然が残る地域にも関わらず、子どもたちが自然に触れる機会が少なくなっていることから、遊休耕地を活用して大田市ゆかりのサツマイモの栽培、収穫等の体験活動を行いました。この活動を通して、住んでいる地域を見直し、食について学ぶことが出来たほか、農業に精通した地域の方にサポートいただくことにより世代間交流も生まれました。

地域の活性化に対する取り組みとして、各町で開催されるイベントでは、地域の農産物や加工品の販売を行い、PR活動を行いました。また、地域資源の活用策として、地域で作られた大豆を使い味噌を作るための味噌加工場の整備や雑木を使った炭づくりを行うため、大屋町では炭窯を整備しました。現在では、各種イベント等で販売を行っており、新たな特産が生まれました。

加えて、ブロック内全域での取り組みとして、“代官いもでまちづくり”をスローガンに掲げて『お芋開発プロジェクト事業』を実施し、サツマイモの栽培体験、環境活動（グリーンカーテン）、サツマイモを使った特産品の開発などを行っています。また、その集大成としてブロック内4町と公民館が一体となり、サツマイモをテーマにしたイベント『お芋博覧会』を開催することで、地域の特産品販売促進や世代間・地域間の交流が図れました。

今後も地域課題の解決に向けて、これらの取り組みを継続的に行うとともに、地域ネットワークの輪を広げ、地域が主導的に行うまちづくりを進めていきます。また、『お芋開発プロジェクト事業』に代表されるブロック内全域で取り組む事業を進め、各町の枠組みを超えた交流を図ります。

2. 地域課題

中央ブロックまちづくり委員会では『第2章. 中央ブロックの現状』やこれまでの取り組みを踏まえ、以下の9つを地域課題として掲げ、これらの解決に向けた取り組みを進めます。

①～⑦については前期計画からの継続課題です。

- ①人口減少と超高齢化社会
- ②中心市街地の空洞化
- ③担い手不足と鳥獣被害の増大
- ④生活交通手段の確保（特に高齢者）
- ⑤田園風景の荒廃、自然環境の悪化
- ⑥人、町同士のつながりの希薄化
- ⑦子どもたちと地域や自然とのつながり不足

⑧⑨については、第4期計画から取り組むべき地域課題として、まちづくり委員会から提案があり、新たに加えています。

⑧防犯・防災体制の強化

既に自主防災組織が設立されている地域はあるものの、ブロック全域までには至っておらず、防犯・防災体制の整備には地域間格差が生じている。近年、局地的な豪雨や地震災害も全国ではみられることから、早急な対策が必要である。

⑨働く場所の確保

中央ブロックにおいても人口流出が大きな課題であり、その一因として働く場所の不足が挙げられる。大田市駅通り周辺の商業地域において空き店舗も目立っており、地域の賑わいが失われつつある現状から、継続的に取り組むべき課題である。

第4章. まちづくりの基本方針と事業展開

1. まちづくりの基本方針

先に掲げた地域課題に対して、中央ブロックとして、以下に掲げる5つの柱によりまちづくり活動を取り組みます。

A ネットワークづくり

すべての地域活動の基盤となる人と人との繋がり（ネットワーク）を作り、地域に住む全ての人々がまちづくりに関わるような取り組みを進めます。

[取り組むべき地域課題] ⑥人、町同士のつながりの希薄化

B 安心できるまちづくり

防犯・防災活動を積極的に取り組むとともに災害発生時に的確で迅速な対応ができるような体制づくりを進めます。

また、過疎化が進む地域であっても、住み慣れた地域で快適に暮らせるような生活支援や生活交通確保に向けた取り組みを進めます。

[取り組むべき地域課題] ①人口減少と超高齢化社会、④生活交通手段の確保（特に高齢者）、⑧防犯・防災体制の強化

C 癒しのまちづくり

恵まれた自然を後世に残すため、景観美化活動や自然環境教育を行います。

また、農業従事者の高齢化や鳥獣被害により、休耕田や荒廃地も増えていることから、地域住民が相互に支援する体制づくりを進めます。

[取り組むべき地域課題] ③担い手不足と鳥獣被害の増大、⑤田園風景の荒廃、自然環境の悪化

D 学びのまちづくり

人や地域での交流が少なることで、古くから地域で行われている行事や風習が廃れていくことが危惧されており、後世に地域の文化が残るような取り組みと合わせて、地域の子どもたちが豊かな人格を育むような取り組みを行います。

[取り組むべき地域課題] ⑦子どもたちと地域や自然とのつながり不足

E 賑わいのまちづくり

地域おこしイベントや地域行事により、地域の特産品販売や世代間・地域間の交流を図り、活気あるまちづくりに取り組みます。また、中心市街地においては、空き家や空き店舗を有効的に活用できる仕組みづくりを進めていきます。

また、UIターン者が地域に溶け込みやすい環境を作り、誰もが住みやすいまちづくりを行います。さらに地域特性を生かした農業支援や空き家・空き店舗を活用した新規創業支援を進める取り組みを行います。

[取り組むべき地域課題] ①人口減少と超高齢化社会、②中心市街地の空洞化、⑨働く場所の確保

2. まちづくりに向けた事業展開

○ まちづくりの基盤	
A	ネットワークづくり 「住民の全員参加によるまちづくり」「地域で進めるまちづくり」
	<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信事業（ホームページ、広報誌、SNSによる） ●イベントの開催 ●小規模多機能型自治の推進
○ まちづくりの支柱	
B	安心できるまちづくり 「みんなで力を合わせて、だれもが安心して暮らせるまち」
	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>防犯・防災活動の拡充</u> ※ ●交通対策や買い物支援などの生活支援
C	癒しのまちづくり 「美しい自然で心和むまち」
	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアによる環境美化活動 ●田園風景を残すための田畑の維持管理事業
D	学びのまちづくり 「自然、地域を学び、地元愛を育むまち」
	<ul style="list-style-type: none"> ●地域行事・伝統行事の継承
E	賑わいのまちづくり 「地域資源を活用し、賑わいのあるまち」
	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>中心市街地の活性化</u> ※ ●地域の特産品のプロモーション・販売 ●<u>定住対策</u> ※ ●雇用創出

※ 第4期で集中的に取り組む事業

第5章. まちづくりの事業内容

《事業内容》

A ネットワークづくり

「住民の全員参加によるまちづくり」「地域で進めるまちづくり」

●情報発信事業

ホームページや広報誌だけでなく、双方向で情報を出受することができるSNSの活用により、イベントの周知だけでなく、多くの方がまちづくりに参加できる体制を構築します。

●イベントの開催

人と人とのつながりが希薄になっている現代において、地域イベントを開催することにより、世代間交流・地域内外の交流を図り、まちづくりの根幹となるネットワークづくりを行います。

●小規模多機能型自治の推進

地域の自治組織を強化し、地域に密着した定住関連事業などのコミュニティビジネスを実施できる体制づくりを行います。

B 安心できるまちづくり

「みんなで力を合わせて、だれもが安心して暮らせるまち」

●防犯・防災活動の拡充（第4期で集中的に取り組む事業）

東日本大震災や集中豪雨（ゲリラ豪雨）による被害も全国各所で発生しており、大田市においても災害に対する備えが求められています。中央ブロックの川合町、久利町では町全域の取り組みとして、自主防災組織を立ち上げており、少しずつ地域住民の防災意識も高まっています。今後は、防災組織の未整備地域に組織作りを促すとともに、より実践的で、効率的な防災・対災（災害が起こった際の的確な対応）について、地域をあげて取り組みます。

●交通対策や買い物支援などの生活支援

高齢者を含め、多くの方が移動手段として自家用車を利用していますが、近年、高齢者が絡む交通事故が多発しています。また、車を運転しない人は病院、買物へ行くにも公共交通機関を使われていますが、利便性に欠けている状況です。現状に応じた公共交通の整備や民間活力を利用した買い物弱者対策を進めていきます。

C 癒しのまちづくり

「美しい自然で心和むまち」

●ボランティアによる環境美化活動

清掃活動や環境美化活動は継続して行っていくことが大事であり、今後もこの取り組みを進めるとともに多くの仲間を集って、美化意識の高い地域をつくりあげていきます。

●田園風景を残すための田畑の維持管理事業

農作業に従事する人は高齢者が多く、農地の維持管理に苦慮しており、管理しきれずに休耕田となったり、荒地になったりするケースも多くなっています。地域ぐるみで農地を管理する仕組み作りを行います。

D 学びのまちづくり

「自然、地域を学び、地元愛を育むまち」

●地域行事・伝統行事の継承

豊かな自然が残る地域にも関わらず、子どもたちは運動クラブや塾通いで忙しく、自由な時間も家でテレビやパソコン、ゲームなどで過ごし、自然に触れる機会が少なくなっています。地域と学校が協力し、地域行事への参加や地域の伝統を学ぶ機会を増やす取り組みを行います。併せて、次世代の地域リーダーとなる子供たちの親世代に対しても地域活動への参加を促す取り組みを行います。

E 賑わいのまちづくり

「地域資源を活用し、賑わいのあるまち」

●中心市街地の活性化（第4期で集中的に取り組む事業）

大田市の中心地である大田町の商店街活性化を図り、ここを核にブロック内全域の活性化に繋げる取り組みを行います。他町に比べると、飲食店や商店が多く立ち並んでいますが、近年、空き家・空き店舗が目立ち、賑わいが失われつつあります。地域住民、商店主、若者などでネットワークを作り、一緒に活性化を考え、実行する取組を行います。

また、空き店舗（空き家）も増えており、活性化の妨げとなっています。これらも資源と考え、有効に活用できるしくみづくりを行っていきます。

●地域の特産品のプロモーション・販売

地域イベントを中心に農産物、農産加工品、特産品の販売を行うとともに、地域資源を活かした新たな特産品の開発を行い、地域活性化をはかるために生産向上、売上向上を目指します。

●定住対策（第4期で集中的に取り組む事業）

“地方創生”と言われ、地方回帰の動きがあるといわれていますが、中央ブロックでは、人口減少、少子高齢化がさらに進んでいます。地域コミュニティを維持するには、マンパワーが必要であり、定住対策は継続的に取り組んでいかなければならない課題です。地域において、子育てしやすい地域づくり、転入者を受け入れる体制づくりなど、住みやすい地域、住む人が地域のネットワークにより快適に暮らせるまちづくりを目指します。

●雇用創出

人口の流出防止、定住の促進を進める上で働く場所を確保することが大きな課題となっています。地域特性を生かした農業支援や空き家・空き店舗を活用した新規創業支援などの取り組みを行政と地域が連携して進めていきます。

《事業リスト（第4期）》

事業内容	第4期			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
A ネットワークづくり	情報発信事業	●	●	●
	フェイスブックなどSNSを活用した双方向ネットワークの構築			
	地場産業PR促進事業	●	●	●
	地域イベントを開催し、地場産品等の販売・PRを行うとともに、世代間・地域間交流を図りまちづくりのネットワークを広げる			
	小規模多機能型自治の推進	●	●	●
定住関連事業について、コミュニティビジネスとして事業委託を受ける地域の体制（付け皿）づくりを進める				
B 安心できるまちづくり	防犯・防災活動事業	●	●	●
	防犯・防災研修の実施、防災組織の未整備地域においては、組織の設置			
	地域交通対策事業	●	●	●
公共交通の利便性を高めるための先進事例の研究や講演会の実施				
C 癒しのまちづくり	三瓶川環境整備事業	●	●	●
	三瓶川沿線・県道沿線の環境美化活動			
	農村景観整備事業	●	●	●
管理の行き届かない田畑の管理を地域で支援する仕組みづくり（支援員の配備）				
D 学びのまちづくり	自然塾事業（代官いもでまちづくり）	●	●	●
	遊休耕地を活用したさつま芋の栽培・収穫等体験、及び地産地消、世代間交流を図る			
E 賑わいのまちづくり	中心市街地の活性化事業	●	●	●
	商店街との協力体制強化、地域、商店街、若者が一体となって取り組む企画立案、及び実施			
	お芋開発プロジェクト事業	●	●	●
	さつまいもをキーワードにグリーンカーテンづくりや料理教室、お芋博覧会を開催			
	定住対策事業	●	●	●
	UIターナーを受け入れる体制づくり勉強会・講演会の実施（定住促進に向けた住民の意識醸成）			
新規創業者支援事業	●	●	●	
新規創業者に対する空き家・空き店舗の情報提供				